

■■■ 元気なうちに整える ■■■

ゆるい しゅうかつしんぶん 終活新聞

2023年(令和5年)10月

第47号

終活は人生が終わることへの準備だけでなく、人生をよりよく生きること。選択肢を知り、主体的に生きること。わかりやすい終活情報発信メディア。

大丈夫？もしもの時のデジタルデータ スマホ・PCに大事なものはありますか？

スマホやPCを多くの人を持つ時代になり、日常から仕事のことなど多くのものがデジタルになっていませんか？死後、スマホやPC内に保管されているデータのことを「デジタル遺品」と言います。種類はさまざまで、書類や画像データ、ネット銀行やネット証券の口座、仮想通貨などの金融商品、デジタルマネー、各種SNSやサービスアカウント情報など身近なものもたくさん存在しています。こうしたデジタル遺品の多くは、IDやパスワードを入力しないとアクセスできないため、本人が亡くなると残される人は大変困ります。サブスクなど定額制のものは解約手続きしないと死後もお金が引き落とされていきます。また、金融資産がわからないと相続をスムーズにすすめられないこともあります。もしもの時のために、元気なうちにデジタル遺品になるものの棚卸し、IDやパスワードを「終活エンディングノート」に書き留めておくことは大切です。

残される人のためにも

整理しておきたいデジタルデータ

【ネット銀行の口座】

預貯金と同じ遺産となるため、相続時に財産を把握できるように、銀行名、口座番号、口座の種類を書き留めておく。

【電子マネー】

電子決済サービスや交通系電子マネーは現金と同じように相続できるが、引き継げない場合もあるため注意！

【オンライン金融商品】

仮想通貨やFXなどは、パスワードを知らなくても相続できてしまうため、より注意が必要です。

【カード等のポイント】

クレジットカードやポイントカードなどは引き継げない場合が多いため、厳選しておきましょう。

“もしもの時のために”

見つけてほしいデータ、見られたくないデータを分けておきましょう

◆見つけてほしいデータ

ネット銀行やネット証券の情報、友人知人の連絡先などの見つけてほしいデータは、フォルダを作るなどしてわかりやすくしておきましょう。遺影写真になるような自分の素敵な写真もPCのデスクトップにフォルダを作っておくのも良いでしょう。

◆見つけてほしくないデータ

ブラウザの閲覧履歴やお気に入り、個人的なメールや写真などは隠しファイルにしたり、自動でデータを消去してくれるアプリを導入してみましょう。

▶▶▶ iPhoneのロック解除は難しい ▶▶▶ ロック解除のパスコードを一定数以上間違えるとデータが初期化されることがあります。自分にもしものことがあっても、遺族がスマホを開くことができるようにしておいてください。

□ 自分以外の方が自分のスマホを開くことができますか？

今号は整理しておきたいデジタルデータ。スマホやPCの普及で便利になりましたが、自分にもしものことがあった時を考えてみてください。残される遺族が開くことができるように、終活エンディングノートやメモなどに書き留めておいてください。私は終活の重要性を伝える活動を仕事と家庭の間でやっております。今年度はありがたいことにお声掛けいただく機会も増えてきました。10/18, 11/19 観音寺市の地域おこし協力隊の方の居場所でイベント、11/5は丸亀市マルタスで「ゆるい終活の集い」と月刊マルタさまの終活イベントも参加させていただきます。はじめて「写真整理入門」開催。さぬき市でお話する機会も♪できる範囲でコツコツと…♪



「終活ノオト」
公式LINE